



2012

迎春



赤富士 (写真提供: 根岸丈夫様)



年頭にあたって

群馬中央医療生活協同組合

理事長 瀧口道生

2012年の正月を迎えました。けれどもこの国はいま、ここから「明けましておめでとう」ということのできない社会になっています。

昨年3月11日の東日本大震災、それにつづく福島第一原発の事故。地震列島の上に成り立つこの国の宿命からのがれることはできないけれど、この狭い国土に54基もの原発を乗せ、そのうちの一基が事故をおこしても、多くの国民が逃げ場を失ってしまう。そんな現実からは、みんなが心をあわせれば、のがれることもできるはずなのに、いまだにそこにたどりつけずにいるいらだちもつります。

さらに150億円のお金をカジノで使う大金持ちがいる一方で、働きたくとも仕事がないままに路上生活をしている人もいる不平等な社会。生活保護受給者が200万人を超え、生活保護を受けることのできない困窮者はそれ以上の数にのぼります。そんな社会にあって、私たちの医療生協は60年もの間、多くの困難に遭遇しながらも、うちひしがれることなく常に前を向いて歩んできました。その力は「一人は万人のために、万人は一人のために」という助け合いの精神に支えられた組織の根っこから湧きでてくるものです。

昨年7月からはじめた「無料低額診療」制度の利用者も着実にふえています。また、病院・診療所の医療にとどまらず、往診や訪問看護、訪問リハビリなど在宅医療、さらには介護の通所施設、宿泊施設の新設や充実をめざすとりくみも進められています。また、それらの事業を担う医師・看護師・リハビリスタッフなどの職員も次々と集まってきています。地域に役立ち、愛される事業や活動を地域の人々とともにすすめてゆく医療生協。61年目を迎える今年、還暦からの新たな出発を職員・組合員の総力を上げて準備し、ここから「おめでとう」といえる年をつくりましょう。

今月は新年号につき、1・4・5・8面がカラーとなっております。

